

## Ⅵ 研究の問題点と来年度への課題

私たちの研究は、子ども一人ひとりを現在以上によく見つけ、よく理解して指導に当たり、子どもたちが、将来、社会自立してくれることを願っての出発であった。そして、目標目ざしてひたすらに歩み続けたが、その間には、いろいろな試行錯誤があった。それらは、現在、すべて解決されたわけではなく、歩みは、これから本筋に入るとも言える。理論的な組み立てが中心となり、それを具体的に展開する活動が乏しかったこともその一つである。来年度は、具体的な実践をどんどん積み重ね、一人ひとりの表現化を見つめて事例研究を進めることによって、表現化の神随へと追ってみたいものである。さらに、その過程で、実践指導された結果が表現化され、児童、生徒の生活化のための行動力が身についてきたかどうかについての理解を深めるために、評価の存り方（内容、方法、生かし方等）についての研究を充実していかなければならない。

また、現在の教育内容、指導計画の立て方、学習指導方法等についても表現化という立場から常に反省、検討を加えながら歩み続けたい。

### 研 究 同 人

校長 大石 純悟                      副校長 北村 泰

茅原 茂俊                      山里 一夫                      清水 正明

竹内 伸二郎                      田口 久恵                      八木 啓子

手皮 小四郎                      松嶋 守城                      福田 和則

金澤 勝幸                      岩成 博子                      田中 将歳

土井 英揮                      谷 詰 篤子                      入川 ふた美